

中国人留学生の情報発信が日中交流において果たす役割に関する研究

Research on the role of Chinese international students' dissemination of information in Japan-China exchange

学籍番号：201521659

氏名：唐 嘉

Jia TANG

近年、「留学生 30 万人計画」によって、在日留学生数が増え続けている。その中で 4 割を占めているのは中国人留学生である。日本人、中国人双方に対して日常的に行う情報提供は日中交流において一定の役割を持つと思われる。そこで、本研究では、中国人留学生は日本人と中国国内の家族や友人に対し、日常的に行う情報の提供と発信に注目し、お互いの国についてどのような情報発信しているのかを明らかにし、彼らが日中交流において果たす役割について考察を行うことを目的とした。本研究では筑波大学大学院に在学している中国人留学生 20 名を対象にした半構造化インタビューを行った。また調査の枠組みとしては、能動性と受動性の視点からインタビュー内容について分析を行った。インタビュー調査の結果から、中国人留学生が日中両国に対する「発信量」はほぼ同等であったが、能動的発信件数では「中国人への発信量」が「日本人への発信量」より多く、受動的発信件数では「日本人への発信量」が「中国人への発信量」より多かった。また、傾向性においても、「中国人への情報発信」の方が「日本人への情報発信」より能動的傾向にあり、「日本人への情報発信」は「中国人への情報発信」より受動的傾向にあった。そして、情報発信の内容から見ると、日本人への情報発信は能動的であれ受動的であれ「食文化」という回答が多かった。これは、食文化に関する話題が留学生として話しやすく、日本人学生も興味を持ちやすいものであり、日中交流において扱いやすいと考える。中国人への情報発信における能動的なものは家族に対して「日本の良いイメージを伝えたい」という理由から行われることが多く、「観光」、「医療」、「食文化」、「交通事情」、「生活環境」、「日常」、「日中の違い」、「社会事情」など多岐にわたるものであった。

これらの結果から、中国人留学生は日中交流において日本人に対する情報発信は消極的であるのに対し、中国の家族に対して日本の良い印象を伝えようとする傾向が日本に関するポジティブな情報発信につながった。一方、彼らの存在が潜在の留学生を生み出すことや若い世代の従来の日本印象を変えることに直接つながっているわけではないと考察した。

研究指導教員：歳森 敦

副研究指導教員：松林 麻実子